

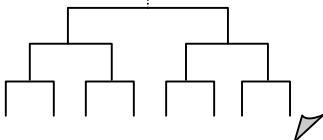
「思考の節約」意識をもたせる

算数科の本質は、簡潔・明瞭・的確な表現・処理方法を考え出すことです。具体的には、「もっと簡単にならないか」「もっと便利な方法はないか」「もっと正確にできないか」「もっと速くできないか」・・・等と、常に考えさせることが大切です。

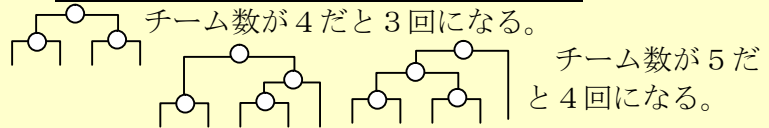
このような意識にこだわると、数学的な見方や考え方（思考力）が育ってきます。

例1：「試合数」

野球のチーム数が100あります。トーナメント方式で試合をします。何試合になるでしょう。



一度に100チームという数を考えるのは、複雑になりそうだ。まず小さい数で考えて、きまりを見つけてみよう。



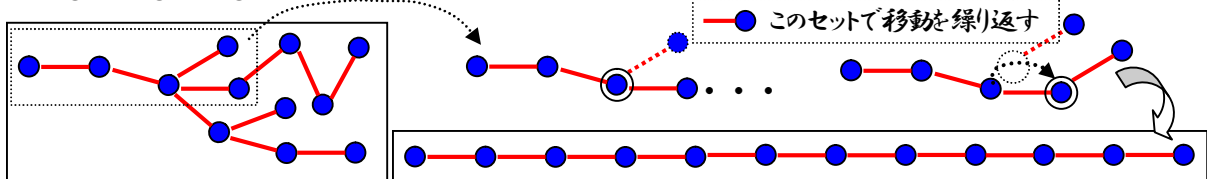
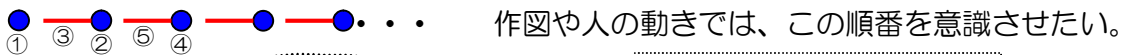
つまり、チーム数が100だと、-1で99回になる。

* 観点を変更させる。

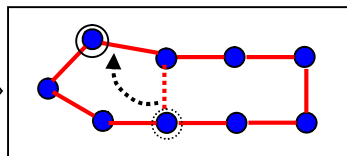
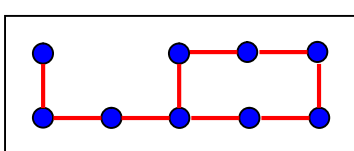
「全部で何試合必要？」→「負けるチーム数はいくつ?」「何チームが負けて帰る?」
トーナメント方式の場合、優勝チーム以外の全てのチームは、1回だけ負けて試合が終わる。つまり、負ける数が試合数と同数となる。 $100-1=99$

例2：「人文字」

* 物(人)と間の関係の考え方として、単体(1人)では間ができず2つ目から間ができる。



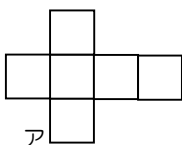
* 囲まれる部分のない形は、複雑であっても一直線と同様と考える。



* 囲まれる部分を含んだ形は、直線部分があっても、1つの囲まれた図形と同様と考える。

例3：「立体」

「展開図を組み立てた時、点Aと重なる点はどこ?」



* まず、2面だけを組み立てて考える。
* 平面でみると、2面の対角線の点Aが、立体にした場合には、一番遠い位置となる。

